



〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099 (226) 5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



教区のみなさん、新年あけましておめでとうござい  
ます。今年もどうぞよろし  
くお願いいたします。新し  
い年をいかがお迎えでし  
ようか。

昨年を振り返って  
去年一年間の鹿兒島教区  
の合言葉は「寄り添う」で  
した。それで、「先ず、あ  
りのままの自分を知り、認  
め、受け入れることで自分  
に寄り添い、目の前の人を  
裁くことなく認め、受け入  
れることで人に寄り添い、  
さらに、みことばに親しみ  
、ミサや祈りを通して神さま  
に寄り添う信者らしい生活  
を大事にしてほしい」と折  
に触れ語ってきました。

何よりも大事なことは神  
さまに寄り添うことであっ  
て、前の二つはこのことで  
実を結びます。別の言い方  
をすれば、神さまのみ旨を  
知ろうとして耳を傾け、神  
さまに寄り添うことを学べ



いつくしみの扉を開ける (12月13日)

### 2016年 年頭教書

## いつくしみの特別聖年を生きる 新しい生活の仕方です託された地球環境にも目を

鹿兒島教区 司教 郡山健次郎

ば学ぶほど、司祭は司祭ら  
しく、信者は信者らしくイ  
エスさまの羊としての生き  
方が充実してきます。そし  
て、周りの人々には、そん  
な自分と共にいることで喜  
びと希望がわき、こうして  
一人ひとり教会の宣教に  
大きく貢献することになり  
ます。この思いを大事にし  
ていただきたいと思いま  
す。

います。教会がイエス様の  
路線から離れて自己流の教  
会になっていないか、信者  
や司祭一人ひとりに反省を  
促し、本来の姿を取り戻し  
てもらうために「いつくし  
みの特別聖年」が設けられ  
ました。

環境的  
そんな教皇フランシスコ  
が「本気で取り組んで欲し  
い」と願っておられるもう  
一つのこと「私たちの家  
である」この地球を大事に  
することです。つまり、環  
境に寄り添うということ  
です。そのために出されたの  
が六章からなる長い手紙で  
す。いわゆる回勅と呼ばれ  
るものですが、別名「環境  
回勅」とも言われるように、  
第一章はこの地球を「みん  
なの家」と呼んで「環境問  
題に関する最新の科学的成  
果を踏まえ、気候変動・水  
問題・生物多様性の減少な  
ど」(司教勉強会配布資料)  
について鋭い指摘をされて  
います。

いて述べてみたいと思いま  
す。つまり、信者はこの世  
界をどのように理解し、ど  
のように関わればいいのかと  
いう問題のことです。  
一節で取り上げられてい  
るのは「新しい生活の仕方」  
ということ、消費社会の  
中に生きる私たちの生活の  
仕方を直すように呼びか  
けておられます。三節は  
「環境的回心」で、初めて  
目にする表現で興味を覚え  
ました。  
「世界では砂漠が広がっ  
ていますが、それは私たち  
の内なる砂漠が広がってい  
るからです。環境の危機は  
深い内的回心を呼び起こす  
ものです。熱心な信者であ  
っても環境問題には冷やや  
かであったり、生活習慣を

地球環境も  
託されている私たち  
マタイが福音宣教の対象  
を「すべての民」(二八・  
18)に限定しているのに対  
して、マルコが、この自然  
界をも含めての「すべて」  
と言っていることに注目し  
たいと思います。  
つまり、マルコによれば、  
自然界も福音宣教の対象に  
なるわけで、それは、私た  
ち信者が、今回の回勅で強  
調されている「世界の守り  
手」として派遣されている  
ということに通じます。そ  
ういう意味でも、神さまの  
手作りであるこの美しい世  
界を大事にするのはキリス  
ト信者の本質的な使命と言  
えます。

この自然にも寄り添いな  
がらいつくしみの特別聖年  
を過ごすことになりま  
す。世界を眺めれば自然  
も人間世界も神のいつくし  
みからますます離れていく  
かに見えます。しかし、い  
かに天変地異が起ころう  
と、戦争が絶えなくとも、  
悲惨な事件が日常的であ  
ると、イザヤの預言を祈り  
としながら歩んでいきたい  
と思えます。  
「狼は子羊と共に宿り、  
豹は子山羊と共に伏す。子  
牛は若獅子と共に育ち、小  
さい子供がそれらを導く。  
牛も熊も共に草をはみ、そ  
の子らは共に伏し、獅子も  
牛もひとしく干し草を食ら  
う。乳飲み子は毒蛇の穴に  
戯れ、幼子は蝮の巣に手  
を入れる」(一一・6-8)。  
すべての皆さんが、御父  
のいつくしみに包まれた一  
年となりますように。今年  
もどうぞよろしく。

これは、あらゆる信仰生  
活の基本となる姿です。こ  
の基本路線がおろそかにな  
ると心に平安がなく、不寛  
容さが生まれ、その結果、  
赦しが難しくなつて独りよ  
がりの生き方に陥ってしま

くしみの扉が設けられまし  
た。これは、一人ひとりを  
招き続けておられる御父の  
いつくしみを思い起こさ  
せ、そこを通ることで自分  
がどんなに罪深くても御父  
の赦しが待っているという  
見えるしるしです。

変えようとしないう人々もい  
たりします。\*と苦言を呈  
されて、だから「環境的回  
心」、つまり、環境を守る  
ために生活の仕方までも変  
えようとする必要があるだ  
と説いておられます。  
また「神さまの手作りの  
作品であるこの世界の守り  
手としての召命を生きてこ  
とはキリスト信者にとつて  
本質的なことであつて、ど  
うでもいい二次的なこと  
ではありません」と強調さ  
れます。

三位一体の神と共に  
最後に、教皇様の自然界  
に対するまなざしがいかに  
信仰的か、七節から紹介し  
たいと思えます。「三位一  
体と被造物の関係」という  
テーマです。これも私にと  
つては自然とかわるとき  
の新しい視点を与えてくれ  
ました。

「御父はすべてのものの  
究極の根源であり、愛をも  
つて自ら進んで交わりを持  
とうとするための基となる

方です。御子は、御父を表  
す方です。その方を通して  
すべてのものが造られまし  
た。母マリアの体内で形作  
られた時、この世と一つに  
なつた方です。愛の絆であ  
る聖霊は、宇宙の真ん中に  
おられてひらめきを与え新  
しい小道を開いてくださる  
方です。世界は、唯一の神  
をなすお三方によって造ら  
れました。しかし、それぞ  
れのお方は、この創造とい  
う共同の業をそれぞれの特  
性をもって果たされました。  
ですから、この宇宙の  
壮大さと美しさを驚き眺め  
るとき、私たちは父と子と  
聖霊の三位一体の神を賛美  
しなければならぬので  
す。\*  
このように、私たちは、

最終章である六章のタイ  
トルは「環境的教育と環境  
的霊性」となっています。  
ここでは、環境的霊性につ

「注」\*のついている部  
分は英文からの引用。正確  
な訳ではありません。

「注」\*のついている部  
分は英文からの引用。正確  
な訳ではありません。

「注」\*のついている部  
分は英文からの引用。正確  
な訳ではありません。

「注」\*のついている部  
分は英文からの引用。正確  
な訳ではありません。

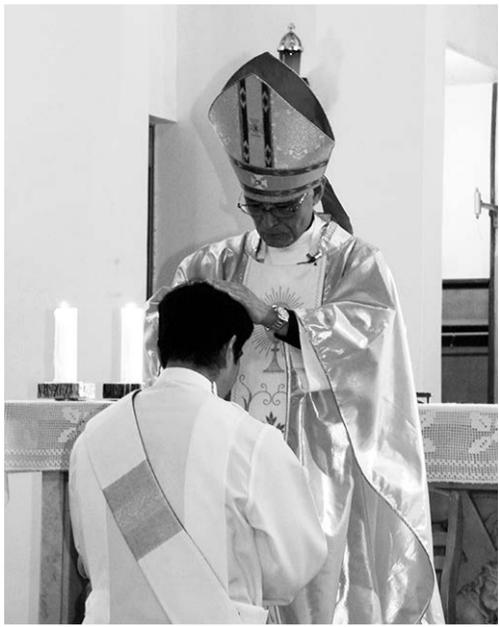
# 奄美大島の真心に包まれて

## パウロ貴島丈弥さん司祭に叙階

奄美市出身の貴島丈弥さんが十二月六日（日）、司祭に叙階された。叙階式会場の名瀬聖心教会には、四百人を超える信徒らが駆けつけ、どんな時にも「なれかしの心」ですべてを受け入れ、司祭職を目指してきた貴島さんの晴れ姿を見守った。

二〇一五年三月に留学先のフィリピンで助祭に上げられた貴島丈弥さん。その後、出身教会である奄美市名瀬の聖心教会（永山幸弘神父主任司祭）で司牧実習を積み、この日の司祭叙階に備えてきた。

貴島さんは、一九七七年一月九日、貴島清良さんと茂子さんの次男として名瀬市（現在の奄美市）に生まれた。幼児洗礼だった彼は、県立大島高校卒業後、社会に出て経験を積んだ。そんな彼が召命について考えるようになったのは、高校卒業から十年も経過しようとする頃。大野和夫神父の声かけに「はい」と答え、福岡のサン・スルピス大神学院へ入学したのだ。この時、貴島さんは二十九歳になっていた。



貴島さんに授けする郡山司教

願いを抱いていたほどだが、これにも教区の事情に即座にこたえて、帰国を厭わなかった。

そんな「なれかしの心」溢れる貴島さんの叙階式は、献堂五十年を迎えるという聖心教会で午後四時から行われた。聖堂内には大野和夫神父以来、五十四年ぶりの聖心教会出身司祭誕生瞬間を一目見ようと、同教会関係者はもちろんの地で過ごしてきた。留学を命じられた時の貴島さんは、「言葉の通じない国で不安だらけでしたが、司教様が駆けつけられました」と、いかに彼らしい返答。留学中の六年間、教区の会計室にもほとんど生活費など請求することなく、「何とかやってます」と慎ましく生き抜いてきた彼だった。

### いつも望み以上のものが用意されている

#### これまでを振り返って新司祭

大神学院で三年間を過ごし、順調に朗読奉仕者に選任された貴島さんだったが、郡山司教の「海外で経験を積んで欲しい」との要望から、フィリピンへ留学。そこで青少年司牧のプログラムを学び、六年間を異国の地で過ごしてきた。留学を命じられた時の貴島さんは、「言葉の通じない国で不安だらけでしたが、司教様が駆けつけられました」と、いかに彼らしい返答。留学中の六年間、教区の会計室にもほとんど生活費など請求することなく、「何とかやってます」と慎ましく生き抜いてきた彼だった。

ミサの終盤、拝領祈願後には祝賀式が実施され、郡山司教と司祭団、修道者、信徒の代表が貴島新司祭に祝辞を述べた。その後、教会学校の子供たちや教会関係者からの花束や記念品を受け取った貴島新司祭は、「九年という歳月を思い起こし、そして今、ここにこうしていることに驚いています。助祭としての実習はお世話になったマニラで叶いました。イエスキリストは、いつも私が望んでいるものを下さず、いつも私の望み以上のものを用意してくださっています。だからこそキリストとの一致が大切です。そ



司教の脇でミサを進める

ミサ後は、会場を近くのホテルに移し祝賀会が開かれた。本土地区では考えられないほど大勢の信者が参列した祝賀会は、奄美の信徒たちがいかに貴島新司祭

福音朗読後に説教した郡山司教は、貴島さんが叙階の記念カードにと選んだことば「あなたはわが愛する子、わが心にかなう者である」（マルコ・11）を取り上げ、「どのようになら、このみことばのように神に愛される羊になれるだろう。教皇がおっしゃるように、他人という聖地に入るときには、己のプライドや教養に囚われず、寄り添う心で臨んで欲しい。これはまさにマリアさまの生き方。貴島君も何事にもそうだったが、私たちもアーメンを生き抜いていこう」と貴島さんのこれまでを振り返るとともに、集まった信徒にメッセージを送った。

説教後の叙階の儀では、助祭としての指導に当たった永山幸弘神父が貴島さんを司祭としてふさわしい者として司教に推薦。これを受けて司教が、貴島さんを「司祭団に加える旨」を宣言すると聖堂内に大きな拍手が鳴り響いた。

その後、司教は貴島さんに司祭としての任務について訓話。続いて司教に司祭としての務めを受け入れることを約束した貴島さんは、司教の令兄・郡山昌太郎さんが先唱する諸聖人の連歌を受け、郡山司教の授けと叙階の祈りを受けて司祭の聖位に上げられた。

その後、永山神父の介助を得て司祭服に着替えた貴島新司祭は、手のひらに香油を塗られ、薩摩切子のカリスとパテナを手渡され、ミサを進める司祭団に加わった。



お遊戯を披露する島の司祭団

の誕生を待ち望んでいたか同い知れる、手作りの心温まるものだった。

余興では島内の各小教区が練習を重ねてきた出し物が会場を沸かせ、司祭団も歌と踊りを披露した。また貴島新司祭がかつてのバンド仲間と舞台上がり、ギターを演奏し意外な一面を見せてくれた。会場には笑顔が溢れ、心温まる式典のすべてを終えた。

尚、貴島神父は助任として引き続き聖心教会に着任することが発表された。

### 会と催し（1月）

- 1日（金）神の母聖マリア
- ▼世界平和の日
- 3日（日）主の公現
- 4日（月）ルカ神父命日（一九九八年）
- ▼七田八十吉神父命日（一九八〇年）
- 5日（火）教区本部仕事始め
- 10日（日）主の洗礼
- 12日（火）教区司祭会・教区本部・16時
- 14日（木）永島泰蔵神父命日（二〇〇二年）
- 17日（日）年間第二主日
- 18日（月）キリスト教一致祈週間・25日
- 19日（火）ハイシク神父命日（一九八九年）
- 23日（土）パストララルケア・教区本部・14時
- 24日（日）年間第三主日
- ▼オリブの会・教区本部・14時
- 25日（月）キリスト教一致祈集會・谷山教会・14時
- ▼聖パウロの回心
- ▼郡山健次郎司教霊名
- ▼司祭大会・屋久島・28日
- ▼司祭評議会
- 26日（火）フェリエ神父命日（一九一九年）
- 28日（木）コンペンツス
- 31日（日）年間第四主日
- ▼奉獻生活年閉幕のミサ・ザビエル教会・14時
- ▼カトリック児童福祉の日

#### 祈りの意向

- 【ノベナ】司祭大会（14日～23日）
- 【祈祷の使徒会】世界共通・諸宗教対話
- 宣教・キリスト者の一致
- 日本の教会・新成人のために

### 文芸

- 短歌
  - 始良教会 川口節子
  - 全能の神のみ成せるクリスマス愛のしづくは幼子となり
- 国分教会 市来房枝
- 聖堂に真紅の光差し込みてパイプオルガン鳴り響きぬ（特別聖年始まりの日）
- ぬ（特別聖年始まりの日）
- 鹿兒島純心 川上和
- 新たな年を頂きここに立つ賛歌にたくすこの喜びを
- 大笠利教会 稲牛憲
- 病みて知る喜びの極み病床に臥して居ながら聖体を受く
- 俳句
  - 鹿兒島純心 川上和
  - ザビエルに集まる感謝夕のミサ
  - 初日の出薩摩の街も希望に染む
  - 谷山教会 東健一郎
  - 寒灯を消して聞き入る聖歌かな
  - 吉野教会 徳永ノブ子
  - 親切のお返し祈る冬の空ふる里を偲びて語る小春の日
  - 冬ぬくし老いの心も晴れ晴れと
  - 国分教会 政ノブ子
  - 降誕祭集う御堂は歓喜の日招待状笑顔が弾む冬一日

# 回心への姿勢が問われる一年開始

## 教区各地でいつくしみの扉を開く式典

無原罪の聖マリアの祭日の十二月八日(金)、聖ペトロ大聖堂のいつくしみの扉が開かれ、いつくしみの特別聖年が始まった。

鹿兒島教区では、フランシスコ教皇の「地方教会においても聖ペトロ大聖堂に設置して欲しい」との願いを受けて、司教座教会であ

るザビエル教会、また地域的配慮から奄美の聖心教会と徳之島の母国教会の扉を「いつくしみの扉」に指定、ラテラン教会の扉が開かれる十二月十三日(日)に、その扉を開く式を行った。

ザビエル教会での式典は、主日の二番ミサに合わせて実施。集まった百八十人ほどの信者たちは、まず



いつくしみの扉を通して聖堂へ

教会一階広場で祈りをささげ、福音朗読の後、教会の巡礼の旅を意味するという行列で、二階にある主聖堂の中央扉前に進んだ。

司教は扉に向かって「正義の門よ、扉を開け。この門を通して中に入り、いつくしみとゆるしを頂こう」と述べた後、開かれた「いつくしみの扉」を通して聖堂に入り、信者たちもそれ

に続いた。

ミサの中では、渾水と洗礼の約束の更新があったほか、特別聖年の祈りが唱えられた。

説教の中で郡山司教は、「世界の教会が神のいつくしみをたたえ、それが全世界、地上にこだましているように感動している。この扉を通り、神のいつくしみを改めて感じた私たちは、教皇フランシスコのように生活習慣さえも変えて、新しい生き方に挑まなくてはならない」と特別聖年に回心に本気で取り組むようメッセージを送った。

### 11月の司教評議会 信徒からの 提案事項を検討

十一月十六日(月)午後、教区本部で司教評議会が開かれた。主な議題は、①十二月八日から始まる「いつくしみの特別聖年」について、②信徒から提案された事項について。

### さようなら鹿兒島の皆さん

#### 聖マリア在俗会の島澤さん長崎へ

北薩地区で多くの人々を教会に招き、そして迎え入れるという母親のような存在だった聖マリア在俗会の島澤朝江さん(八十五歳)が、十二月十四日、長崎市にある老人ホームへ入居するため、半世紀を過ごした



鹿兒島を離れた。

大分県津市出身の島澤さんは、女学校卒業後、中津市役所に勤務。受洗したのは、二十八歳の時。その後、ドイツ人修道女の紹介で、聖マリア在俗会(旧聖母カテキスタ会)の創設者ゲオルグ・ゲマインダー神父のもとを訪ね、同会の志願者となった。そして一九六一年三月、初奉獻したという。

その翌月から押切教会(名古屋市)に勤務し、一九六五年に鹿兒島教区に赴

### 11月の司教評議会

十一月十六日(月)午後、教区本部で司教評議会が開かれた。主な議題は、①十二月八日から始まる「いつくしみの特別聖年」について、②信徒から提案された事項について。

任した。鹿兒島での最初の赴任地は加世田。それから阿久根、入来とレデンプトール会の司祭たちの助け手として五十年を駆け抜けてきている。

「あなたも老けたわね」といたずらっ子のように笑う島澤さん。ご自分が年を重ねたことよりも、付き合っている長い司祭たちが年々とともに衰えていくのが寂しいと語る。今後は、イエスのカリタス修道女会が経営する「ケアハウスかおり」(長崎市三京町)に身を寄せ、そこに入居している聖マリア在俗会の会員とともに司祭たちのために祈りをささげるのだという。いつまでもお元気で!

### +KABAYAN SEKSYON+ Isang Ginoo ng Konsiyensya at Martir

Noong 1938 sinakop ng hukbo ni Hitler ang Austria. Si Franz Jagerstatter(1907-1943), isang karaniwang magsasaka, ang tanging mamamayan na bumoto laban sa Anschluss(pagdidikit ng Austria sa Alemanya).

Kalaunan, lahat ng mga lalaki ay inutusan magpalista sa military. Si Franz ay isang kabiyak at ama ng apat. Nagsanay siya sa military ngunit tumanggap lumaban sa army ni Hitler, gayong batid niyang maaari siyang parusahan ng kamatayan. Sinunod niya ang kanyang konsiyensya, naniniwala na anumang uri ng paglilingkod sa hukbo ay mangangahulugan ng pagkilala sa ipinaglalaban ng Nazi. Nag-alok siyang magbigay ng kapalit na paglilingkod na hindi marahas: hindi ito ipinagkaloob sa Kanya.

Maraming mga "kaibigan" (kapelyano sa preso, mga abogado at mga opisyal sa military) ang nag-udyok sa kanyang huwag makinig sa kanyang konsiyensya para iligtas ang kanyang buhay. Para kay Franz, ang gayong hakbang ay magsasadlak sa kanyang kaluluwa sa kapahamakan. Ipinapatay siya noong Agosto 9, 1943 sa edad na 56 taon.

Noong 2007 idineklara ng Simbahang Katoliko si Franz na isang beato, isang tunay na martir. Tunay nang malalim na pananampalataya at tapang ay inspirasyon sa lahat; ang halimbawang kanyang ipinakita ay nag-udyok sa marami na tumalikod sa digmaan at kumilos para sa kapayapaan.

Katesismo sa "Taon ng Laiko (Fr. Dino Orolfo)

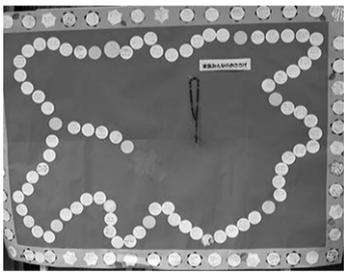
### 十一月のコンベンツス

十一月十七日(火)午前十時からザビエル教会で定例司祭集会(コンベンツス)が開かれた。議題は①「いつくしみの特別聖年」について、②来年九月開催予定の教区評議会のテーマについて、③信徒から提案された事項についての検討。

### マリア様に捧げ物

#### 聖母幼稚園

十月三十日(金)、聖母幼稚園(泉浩二園長)では、聖母行列を行いました。毎年、各クラスで話し合い、マリアさまへのおささげとして、園庭の石ころ拾いや聖堂のお掃除をしています。今年も、「家庭でも取り組んでみましょう」と協力して頂き、おささげしたことを書いてもらい、ロザリオや花の形にして皆の心を表し



ました。聖母行列に参加した子どもたちも保護者の方々も興味津々でカードを読んでおられました。マリアさまもきっと喜んでくださったことだと思います。(職員)

### 十一月二十三日(月)

十一月二十三日(月)、屋久島町小島のシドゥッチ記念碑前で、シドゥッチ祭が行われた。参加者はプロテストの信者も含め約二十人。これまでは町主催で実施されてきたが、行政として今年からは節目の年に記念することになり、今年から教会主催となった。

### 教区主催でシドゥッチ祭

十一月二十三日(月)、屋久島町小島のシドゥッチ記念碑前で、シドゥッチ祭が行われた。参加者はプロテストの信者も含め約二十人。これまでは町主催で実施されてきたが、行政として今年からは節目の年に記念することになり、今年から教会主催となった。

### 教区人事

▼末吉卓也神父(教区本部)は、現職のまま始良教会主任司祭  
▼朴鎮亮神父(ザビエル教会助任)は、始良教会助任司祭  
いずれも着任は一月一日

### 奉献生活の年

1月31日(日) 14時  
閉幕ミサ  
ザビエル教会

司会をマリアの宣教師フランシスコ会のシスターが務め、来賓の荒木耕治町長、郡山司教の挨拶の後、ロザリオ一連をささげた。その後、教会でミサをささげ、昼食後、故コンタリニ神父が、シドゥッチ神父が上陸した所として十字の

②については、テーマを決める前に「なぜ教区評議会を二年に一度行うかを司祭評議会でも話し合っただけ」との意見が出された。

③は前日の司教評議会でも検討された事項である。様々な意見、感想、評価が述べられたものの、提案事項に対して具体的などう取り組むかについては結論に至らなかった。

この中で、長崎教会管区司祭集会が二〇一六年十月二十五日(火)から二十七日(木)まで、沖繩で開催されることになった。テーマは「教区編成」。

### 長崎教会管区司祭集会開催へ

十一月十八日(水)、十九日(木)長崎大司教館で長崎教会管区司祭集会が開催された。

この中で、長崎教会管区司祭集会が二〇一六年十月二十五日(火)から二十七日(木)まで、沖繩で開催されることになった。テーマは「教区編成」。

# 「福音の種は蒔かれた」(1)

レデンプトール会 谷山教会主任司祭 トマス頭 島 光



「福音宣教、それは私たちがの救い主であるイエスを明確に告げ知らせる」こと、それは福音宣教ではないなら、それは福音宣教ではありませぬ。「救いをもたらすイエス・キリストの死と復活を、喜びをもって、忍耐強く、革新的にのべ伝える」(「福音の光」一一〇参照) 以外に、福音宣教はありえないのです。

最初に告げられたのは羊飼いたちでした。告げる天使がいて、これを聞く羊飼いたちがいる。即ち、オーディエンスがいるというわけですね。

このようにして、福音の「よき知らせ」は告げ知らされてきたと言えます。言い換えれば、福音の「よき種」は、すでに人々の魂に、またその心に奥深く植え付けられてきたのです。従って、この種を「福音化する」ことは、教会の最大の優先事項であり、急務なのです。植え付けられた「福音の種」をそのままにしておくなら、まさか実るはずもありません。

そこで、神は一人ひとりを集めて回ることにしたのです。こうしてイエスによって呼び集められたのが教会です。

「福音」とは「神のパン種」であることを思い出してください。「パン種」は、それぞれの文化、社会の中に落ちて膨らみ大きくなっていききました。人間は社会と

密接な関わりを持って、それぞれの歴史を歩んできたのです。こうして文化はそれぞれの社会において、人間の様々な価値を創出し、歴史の中にその根を下ろしてきたのです。

その中には、確かに福音的な価値を含み持つ美しきものもまた混在していて、そこにあるのです。人間相互の関わり合いや被造物との関係において、神との関係が肯定する素晴らしきものが潜んでいるのです。神からの恵みと賜物もまた、それらの様々な文化の中に根を下ろし、息づいてきたのです。

しかし、社会の発展や文化の進歩の途上において、人間は誤った道に踏み込み、社会をゆがめ、歩むべき歴史の行方を変えてしまいました。結果、人間は苦しみを覚え、世界は生きる希望を見失い、人として歩み続ける勇気をなくし彷徨い始めたのです。

苦しみの中に打ちひしがれた文化と社会は、新たに生きる力を見出すことができないうまま混沌としています。かつて教会は歴史的に、そのような貧しい人々のところに向いていききました。神はすべての人を愛し、受け入れるほどの大きな慈しみと憐みの心を持つお方だからです。

「蒔かれた福音の種」を良きものとして受けとめ、それを日常の中で花咲かせ、文化の中に開花させたとき、その時の文化や社会をより豊かなものと変えたのです。まさに福音は文化をより良いものに作り変える力を持っているのです。教会に残る伝統的な建築や音楽は、まさにその典型的な例と言えます。

さらに、このことは回心した人間にも言えることです。心の中の愚かしい罪と悪を真摯に認め、喜びのうちに世界に対して一致と調和を表明していきま

ついても学びました。次に教区カリタスについて、大分教区「カリタス大分」の設立趣意書、規約の内容について宮崎教会の吉田神父から説明がありました。そのことについて質疑応答の時間を取りながら互いに理解を深めました。

ちなみに鹿児島教区ではすでに「カリタス鹿児島」をずいぶん前から立ち上げていたので、東日本大震災復興支援の対応もうまくいったと思っております。今後の大災害発生時の備えのためにも日頃から支援基金の蓄えにご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

二日目は教区の「鹿児島きぼうの電話」の活動について山口弘子運営委員長が講話しました。

その中で山口さんは「この電話ボランティアが誕生したきっかけは郡山司教様が司祭の頃、ある日ミサが始まる直前に大きな悩みを伝える突然の一本の電話を受けたことが大きなもとになっています」と紹介されま

つたザアカイはその一致と調和のしるしとして、取り立ててきた「税金を四倍にして返します」と宣言しました。このように福音は、人の生き方をも根底から変えてしまいう力があるのです。それは彼の中にすでに福音の種が蒔かれていたからではないでしょうか。ここに神のみ業を窺い知ることができま

神の福音は押しつけられて生まれるものではありません。また植え付けられて芽が出るというものでもありません。それぞれの文化、社会と和みながら調和し一致して成長していくものなのです。

した。また、これまでの多くの事例を細かく分析して活動の内容を分かりやすく熱心に話されました。

最後にになりましたが、一連の会議運営に多くの方々にご協力いただきました。改めて心から深く感謝申し上げます。

## 鈴木神父のやさしい言葉

### パンを増やした奇跡とは

四つの福音書に共通して載せられている唯一の奇跡物語が「五千人に食べ物を与える」です(マタイ十

として「供食物語」と呼ばれるこの話を旧約聖書に基づいて読み解いてみましょう。

レビ記の中には偶像礼拝を禁じる神の掟に反した場

レビ記の中には偶像礼拝を禁じる神の掟に反した場合、「焼いたパンを量つて配り、あなたたちは食べても満腹することはない」という戒めの言葉があります(レビ二十六・26)。これは本来なら豊かであるはずの食糧が、神からの離反によつて満腹を得られなくなるといふことを意味しています。これに対して供食物

語では食べ物が無い場所であつても、イエス様に従うことによつてすべての人が満腹した、ということが要旨であると言えます。つまり、レビ記と福音書では内容が対称関係で描かれているのです。

さて、パン屑を集めたところ十二の籠が一杯になつたと書かれています。これは十二という数字によつて神の義による統治を表象しているのでしょうか。また、五つのパンとは敵国であるエジプトにイスラエルの五つの町が誕生し、そこで主の祭壇が建てられ、やがて異国の民ですら主なる神に

いけにえと供え物を捧げるようになるというイザヤの

こうしたことから供食物語とは、パンが増えたことではなく、イエス様に従つて生きる者は神の国でそうであるように飢えることない、ということ、また、神の国はやがてこの地上のすべてに広がり、そこでは父なる神が義をもつて統治する、ということ、モテイーフとした話であると考えられるのです。



「蒔かれた福音の種」を良きものとして受けとめ、それを日常の中で花咲かせ、文化の中に開花させたとき、その時の文化や社会をより豊かなものと変えたのです。まさに福音は文化をより良いものに作り変える力を持っているのです。教会に残る伝統的な建築や音楽は、まさにその典型的な例と言えます。

つたザアカイはその一致と調和のしるしとして、取り立ててきた「税金を四倍にして返します」と宣言しました。このように福音は、人の生き方をも根底から変えてしまいう力があるのです。それは彼の中にすでに福音の種が蒔かれていたからではないでしょうか。ここに神のみ業を窺い知ることができま

正義と平和協議会錬成会  
2月6日(土)13時~7日(日)13時  
場所:鹿児島司教区本部  
参加費:一万円(1泊3食・講師謝礼)  
定員:15人(定員になり次第締切)  
講師:林 尚志神父(イエズス会)  
申込先:カトリック正義と平和協議会 TEL03(5632)4444